



# 学園の新教育課程実現へ 普及員資格試験制度改正に対処

和田 文雄

## 一、農林水産省への陳情

去る五月二十七日、同窓会は農林水産省に松本作衛農林水産事務次官を訪ね、学園のこれからの教育課程についての陳情を行いました。

学園は戦後の農村と農業の改良発展のため、普及員の養成と研修に多大の貢献を果してきましたが、同窓会は、学園が四年制の大学と同等の教育機関としての体制を整え、現在の農政や農業農村が求めている農村の指導者の養成を新しい観点から実現しなければならぬことを、数年前から論議検討し対策をねってきましたが、それらを次の三項目に集約して陳情しました。

(一)、改良普及員の資格試験に必要な四年制大学卒業に相当する教育課

程の充実に必要な措置

(二)、都道府県新農業高等学校の卒業生で改良普及員を志望する者を受け入れる教育課程を設ける措置

(三)、これらに必要な経費に対する国の助成の増加、継続

この陳情は、松本農林水産事務次官のほか、山極栄司総括技術審議官、小島和義農畜園芸局長、品田正道農畜園芸局普及部長、田口俊郎農畜園芸局教育課長の各氏にも行いました。

## 二、普及員大学構想と経過

学園の教育の充実に発展についての同窓会の要望のうち、五十六年八月「学園の改善に関する今後の方向について」(五十六年八月一日付ですが、正文の文書とせず、池田理事長吉川学園長等

関係者に説明したもので普及員資格試験制度の改正に対処すべき方向をとりまとめたが、これはそれ以前何年かの討議を経たものであり、学園は農林水産省の方針(高度な技術の履習、あるいは農政の推進方針に即応し、高度かつ専門的な普及活動を行える者)をうけて「四年生大学に匹敵する教育を行い、その要望に応える」方策を講ずるが、学制を変更するときは、

- ① 現在の教育方針を堅持する
- ② 農林水産省の新農業講習施設を委託事業として積極的に受け入れる
- ③ 現行制度との整合方法又は全般制度の見直し

と制度変更にあたっては、広く意見を求めるため委員会等を設けて行うことなどとなっていました。(五十六年八月二十五日池田理事長に説明)

## 三、新教育課程の実施とそのスケジュール

農林水産省は五十八年五月の都道府県普及の主管課長会議に「農業改良普及員は、今後十年程度は、更新期に当たり、毎年相当数の採用が必要とされるところに、年による変動が大きいので、このための対応策として、実践的な指導力を有する人材を養成していく必要がある」養成のための「新農業講習施設(いわゆる普及員大学四年制度)を設置する」とし、設置の主体は「要請のある都道府県及び民間団体と

する。設置にあたっては各施設の特色を出すよう配慮する」新農業講習施設の設置について「検討メモ」を提示しました。ここでいう「民間団体」とは「鯉淵学園」を指すものであるといわれています。

そこで、陳情書を提出したあと農林水産省に、今後のスケジュールについて御指導を頂きましたが、おおよそ次のような日程で実施の計画作成と実施体制の整備を進めることが必要であると考えられます。

- 58年8月 新教育課程(案)の作成  
農林水産省との打合せ
- 59年1月 新教育課程(案)の確定
- 59年2月 新教育制度方針(案)の発表
- 59年5月 右案にもとづく学生募集要綱(案)の作成、発表
- 59年11月 学生募集の開始

以上にもとづいて、学園では受入れの実施の検討をしていますが、おおよそこれからの学園は次のようになるものと考えられます。

- ① 教育の柱は三年制の本科
- ② 本科①二年を修了した者の中からと都道府県新農業高等学校卒業生から募集する者で編成する大学後期相当する二年の課程
- ③ 研究科

すべてを新しくして四年制とすることは、現状の農民教育協会や学園の体制及び財政ではかなり困難があること

と、農業改良助長法の改正時に逆に普及員や普及制度に対する理解、必要性は認められたが、臨調体制下の国の財政や政治方向からは、急激な変化を期待することは、甚しく困難であることが想像されることから、現状の学園の教育制度を確保しつつ、五十八年度新入生及び五十九年に卒業する都道府県農業大学校卒者の受け入れなど、急を要する問題の解消をはかってゆくこと

を中心に対処するものになると考えられます。一方、学園の学生は五十六年度以来入学応募者の数は減少を続けています。が今後は各都道府県農業大学校から少くとも一、二名の入学者があるものと見込めれば、これだけで八十一、九十名となり、本科三年制を含めて一学年二百名をこす学生数となることが予定されます。

この新制度の実現には、まだまだいくつもの解決しなければならぬ問題をかかえています。しかし、陳情をした農林水産省の各氏からは強い励ましの言葉と農林水産省としての普及制度の充実と寄与するものとしての認識を持って戴いております。また都道府県新農業大学校の卒業生が普及員等となる場合には、これしか受け入れ教育機関はないといえます。(この程度のもの

を都道府県でもつくりたい考えをもっているところは三、四県あるときいてい)ので、その人たちのためにも新制度の確立は欠かせないものであります。ここに、全国の同窓生の御理解と御支援をお願いすると同時に、全国各支部で適当な時期に支部総会を開いて、本部又は学園の説明を求め、都道府県段階の対策活動をすすめて下さるようお願いいたします。

## 昭和五十九年度

### 学生募集についてのお願い

#### 鯉淵学園教務課長

同窓会の皆様には益々御清昌にて御活躍のこととお慶びを申し上げます。

さて、学園の毎年の学生募集につきまして、同窓会長、各県支部長はじめ皆様に特段の御配慮をいただいておりますこと厚く御礼を申し上げます。

#### 【58年度入学者数 一〇〇名に満たず】

しかしながら、56年度急減いたしました応募者数が57年度やや回復いたしましたものの、58年度には二次募集によるものを含めても一〇〇名に達せず入学者数は七八名にとどまり、定員の三分の二にも満たぬ状況となりました。学生募集広告につきましては新聞・

雑誌紙上に従来以上に努力いたし、また入学志願勧誘のための高校進学指導室訪問にも懸命の努力をいたして参りましたが、結果はまことに思わしくなく、59年度にはさらに学生数の減少を予想せざるをえない実態にあります。

#### 【学園の対応、地域 リーダー養成の火は消さぬ】

最近、わが国社会経済の構造変化にともない、農業後継者の減少が大きな問題となっておりますことは御承知のとおりで、各県はその確保に非常な力を入れております。新農業大学校の設立・整備も着々と進められておりますし、農業高校における自営者教育の充

実も凶られております。

鯉淵学園は申すまでもなく農村地域の第一線にあつて、農業生産・農村生活の改善・発展において指導的役割を果しうる人材を養成することを建学の理念とし、これまでに多くの有為人材を世に送り出てきております。

ただ、農業の発展にともなつて、農業改良普及事業における普及員の資質向上が必要とされ、普及員資格試験の受験資格が四年制大学卒相当以上に引上げられ、60年度以降には学園本科三年卒業見込みで受験できなくなりましたために、本学園の卒業生の実力が社会的に客観的評価を受ける機会を失いました。このことが高校より大学への進学に際しての進学者の受験校選択にマイナスの影響を与えているように察しられます。

このような事態に対応いたしまして学園は目下、農林水産省の構想する「新農業講習施設」(二年制大学卒を入学条

件として修業年限二ヶ年卒業見込みで普及員受験資格を認める)を昭和60年度に開設して、58年度以降の入学者も入学後四年目に普及員試験を受けることができるよう学制の改革を行おうとしております。

学園卒業生の活躍する舞台は申すまでもなく普及事業だけではなく、農業協同組合その他農業団体、農業行政、農業関連諸産業等幅広い分野にわたるものであり、普及員資格はいわゆる農林地域リーダーなるの資質について社会的に客観的な評価を得ることに意義があると考えております。

したがいまして、学園が目下検討しつつある学制の改革はただ単に普及員資格試験の受験資格を取得することだけを目的とするものではなく、広い意味の次代の農村地域リーダーを養成するのに相応しい高度な教育内容をもととするものであり、今日産業としての農業の地位がややもすれば軽視され

## 鯉淵学園における応募者の推移

( )は志望修正後の数

年度	応募者				合格者				入学者			
	園	畜	生	計	園	畜	計	計	園	畜	生	計
45	99	51	52	202	82	45	48	175	57	38	38	133
46	74	36	35	145	71	34	35	140	50	24	31	105
47	67	27	33	127	66	27	32	125	49	18	27	94
48	77	26	35	138	74	24	35	133	56	18	27	101
49	70	22	34	126	65	22	33	120	52	18	27	97
50	96(86)	26(36)	42	164	83	35	41	159	64	31	35	130
51	120(101)	37(54)	44(46)	201	70	51	46	167	55	44	36	135
52	130(110)	45(59)	39(45)	214	69	50	41	160	53	44	37	134
53	139(124)	46(57)	32(36)	217	72	56	35	163	57	40	30	127
54	127(103)	39(58)	41(46)	207	74	52	45	171	56	42	35	133
55	94(85)	50(58)	29(30)	173	77	53	27	157	58	39	20	117
56	75	36	14	125	70	33	14	117	47	24	12	83
57	78	37	20	135	75	37	19	131	56	31	16	103
58	62	19	16	97	61	17	16	94	49	14	15	78

がちな風潮の中で、学園建学の理念たる農村地域リーダー養成の火は決して消さぬ所存であります。

【農村地域リーダーを志向する学生を一人でも多く】

鯉淵学園は、全国各地から学生が集まり、広い視野と実践力とをもって積

極的に農業の発展に貢献しようとする気概のある人物たるべくお互いに磨き合う、他に類例のない農業の専門教育機関であるところに特色をもっておりわが国農業を守るとともに、出でては世界の農業の発展に献身する人材を養成する学校として期待されております。同窓会員の各位におかれては、学園

## 鯉淵学園の正門が整備さる

かねてからの懸案でありました正門の整備は、24期、25期、29期、33期、35期、36期の皆さんから卒業記念品（正門整備資金）代として寄贈を受けた資金をもとに、中央競馬社会福祉財団の助成を受けて、本年1月に完成しました。整備の主な内容は、9期寄贈の門柱を底上げして高くし、両翼にブロック壁を配置、周辺をアスファルト舗装したことです。



整備された鯉淵学園の正門

の発展のため、特に今日一般の大学にはみられなくなっている農業の実践的学習のできる。しかも、普及資格試験についても四年制大学と同じように四ヶ年の修業で受験でき、農村地域リ

ーダーたるの實力を社会的に評価される学校であることを強調されて、優秀な学生を一人でも多く勧誘して下さい。特段の御配慮を切に切にお願い申し上げます。

## 鯉淵学園寮史(仮称)について

編集準備委員会

学生寮の歴史を編纂しようという提案がなされて以来一年になります。学園在職の若手同窓生を中心に準備委員

会がつくられ、学生自治会にも協力を願って基本資料を集め、実際の作業を開始したのが昨年末でした。

現在までの数ヶ月間の編集過程を要約致しますと以下のようになります。

一、歴史史を整理・編集する以上、あくまで事実を骨格とするのが原則であることから、学生自治会の保存資料を借用し、過去の年月日を追って事実列挙をはじめた。

自治会の保存資料は量的にはかなり残されていたが、昭和二四年までの資料が皆無であった。また二五年より三〇年代の前半までは資料が少なく、偏りがあって寮生活の全体像がつかみにくい。

右のような資料不足のひとつとして学友会の資料が特に少ない。よって学生自治会と学友会との連携（特に草創期）が不鮮明である。

七月現在の作業進行状況は、漸く昭和三〇年代の事実列挙（抜き書き）が終ろうとしている段階である。

二、学園に保存されている寮関係の資料を採集しはじめたが、表向きの大まかなものは残存するか、数が少なく、当時の寮生活を彷彿とさせるような生の資料がほとんど無い。

三、右のような次第で、昭和二〇年から三〇年代に至る寮生活を語ることにできるものは同窓生諸氏しかないのである。当時の寮生活の様子をできるだけ事実らしく語ってもらえるようなアンケート調査を実施した。

とりあえず一期生から三期生までの二百数十名にお願いしたが、現在のところ六通しか回答がない。しかし協力頂いた六名の方からは、薄れた記憶を懸命に呼びおこして頂いてかなり意義深い成果を得た。特に一五枚もの貴重な写真をお送り下さった方もある。

九月からは四期生以降の方々にもこのアンケート調査でご協力頂く予定である。

四、右記の三通りの編集作業はほとんどが同窓会館を利用して夜間に行なわれておるため、今後も相当長期間が費されると思われる。

学生自治会では有志を募って、現在までに三〇名近い学生が協力してくれている。作業の中では過去の寮生活をj知って驚ろきもあり、学生等は現在の寮生活を違った角度から見直すような芽も生まれ、寮史編纂の成果はすでに現われ始めている。

現在までの経過はおおよそ以上のようなどころです。今後の作業を充実させるために、同窓生の皆さんには次の諸点でご協力頂けるようお願いを致し

たい所存です。

一、九月以降にお送りするアンケートにはできるだけ全員にご回答を頂きたい。覚えておられることだけで結構です。

二、アンケート以外にも思い出として綴られたものを送って頂きたい。または、当時の寮生活が知れるようなお手持の資料、写真などをお貸し頂きたい。後日必ずお返し致します。また当時の愛唱歌や鯉淵にまつわる昔歌なども教えて下さい。

三、右の二点は過去の寮生活の有様を整理するためのものですが、別に、寮生活とか、鯉淵の教育についてなどのご意見も頂けると幸甚です。

教育界にあって特異な存在の鯉淵学園。しかもその寮生活のありのままの姿を甦らせようとする試みはとても重要なことだと私もは考えております。どうか、同窓生の皆さんにはできるだけ多くのご協力をお願い致します。

## 一期・二期・三期の皆さんへ

同窓会事務局 局長

鯉淵学園寮史（仮称）の編纂については前号をもって提案した通りです。現在、編集準備委員会が発足し資料の収集や整理にあたっております。と

ころが、昭和二十年代の資料が特に不足し、収集の足がかりとして、一期から三期までの皆さんにアンケートをお願いした次第です。結果は準備委員会

### 学園人集

#### ◎退職

野中スイ	57・5・31	停年
川井観二	57・10・31	依頼
菊地芳子	57・12・31	"
吉富克之	58・2・28	"
近秀次	58・3・31	停年
高石直良	58・3・31	"

#### ◎採用

浜田正子	58・4・1	教務課図書館勤務
森住浩光	58・4・1	園芸農場勤務（31期生）
岡田進	58・5・1	酪農場勤務

の報告にもありますようにわずかの回答しか得られておりません。

数年前にひらかれた三期会の翌日、代表数人の「学生時代をしのぶ雑談会」に席をおいたことがあります。当時のがしのばれて楽しくもあり、またいくつかの教訓をもあたえてくれました。皆さん、皆さんの鯉淵時代を想い出していただき、アンケートにお答えいただくようお願い申し上げます。



# 佐藤俊之(二七期)茨城 全国酪農青年婦人経営発表大会二位

去る七月二十七・八日開催された全国酪農青年婦人経営発表大会において関東甲信越代表として発表された佐藤俊之氏はみごとに二位を受賞した。  
佐藤氏は昭和四十八年に本学(畜産コース)を卒業、酪農に取組んで十年現在の飼養頭数三十六頭、平均年間一

## 鯉淵学園 酪農場の現況

昭和三十六年度からの約十年は酪農専業、四十八年から肉牛部門、五十四年からは養豚部門を加えて今日に至り、現在の経営規模は次の通りです。

耕地面積は二三ヘクタール(飼料畑九、草地四各ヘクタール)、乳牛飼養頭数は一〇頭(成牛六五、育成牛四五)、肉牛は常時五〇頭(黒毛種雌牛二)、豚は常時一一〇頭前後(繁殖雌豚一四、同雄一)を飼養しており、職員は七名です。  
昭和五十七年度の成績は繁殖に若干の問題のあった養豚部門を除いて好調であった。農場の中心である酪農部門について、牛繁殖成績乳生産量を紹介しますと表の通りです。

昭和57年度 牛乳の生産状況

区分 月	搾乳量 kg	搾乳 延頭数 日頭	平均1頭1 日当り乳量 kg	1日平均		摘 要
				搾乳量 kg	搾乳頭数 頭	
4	38,571.4	1,763	21.88	1,285.7	58.8	年間1頭 当り平均 乳量(305 日乳脂率 3.2%換 算) 6,588kg
5	41,332.9	1,836	22.51	1,333.3	59.2	
6	35,986.0	1,780	20.22	1,199.5	59.3	
7	33,763.6	1,786	18.90	1,089.1	57.6	
8	27,712.9	1,658	16.71	894.0	53.5	
9	24,298.3	1,503	16.17	809.9	50.1	
10	24,659.2	1,426	17.29	795.5	46.0	
11	25,787.9	1,327	19.43	859.6	44.2	
12	27,012.0	1,365	19.79	871.4	44.0	
1	29,378.1	1,343	21.87	947.7	43.3	
2	30,198.8	1,349	22.39	1,078.5	48.2	
3	38,991.9	1,741	22.40	1,257.8	56.2	
計,平均	377,693.0	18,877.0	20.01	1,034.8	51.7	

頭当りの乳量七千キロを越え、各地の共進会でも入賞牛を出すなど優秀な酪農家である。  
発表内容は、「仲間と共に築く山間地酪農」と題し、本学の教育方針を地味いく地域ぐるみ成果で、氏の活躍が高く評価される。

昭和57年度 乳牛繁殖成績

区分 産次	分娩 頭数	分娩間隔			妊娠期間		種付状況		産績状況			摘 要	
		延日数	平均	同月数	延日数	平均	回数	平均	性別	頭数	計体重 kg		平均 kg
初	15	—	—	—	4,187	279	20	1.5	♂ ♀	4 9	189.0 368.0	47.3 40.9	ジャージー 種・双子1 組除く
2	15	5,304	354	11.6	4,193	280	18	1.2	♂ ♀	5 10	252.5 410.5	50.5 41.1	
3	12	4,321	360	11.8	3,358	280	16	1.3	♂ ♀	5 7	239.0 306.5	47.8 43.8	
4	9	3,069	341	11.2	2,524	280	10	1.1	♂ ♀	2 7	95.0 290.5	47.5 41.7	
5	7	2,657	380	12.5	1,937	277	13	1.9	♂ ♀	3 3	135.0 129.0	45.0 43.0	双子1組除く
6	4	1,419	355	11.6	1,120	280	5	1.3	♂ ♀	3 1	137.5 45.0	45.8 45.0	
7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
8	2	967	484	15.9	543	272	2	1.0	♂ ♀	2 —	88.6 —	44.3 —	
計,平均	64	(49頭) 17,737	362	11.9	17,862	279	84	62頭 1.35 *	♂ ♀ ジャージー	24 37 1	1,136.6 1,549.5	47.7 41.9 20.1	

## 近・高石両先生に対する

### 謝恩募金の呼びかけ

同窓会事務局有志

去る三月三十一日付をもって、長年にわたって鯉洲学園の教育に重要な役割を果たされてきた、近・高石の両先生が停年により退任されました。

近先生は昭和二十三年六月からの約三十五年間、高石先生については昭和二十八年二月からの三十年間の長きにわたって、学園教育の支えとなり、私達学園卒業生に数多くの教訓をあててくれました。両先生に心から感謝の言葉をおくりたいと思います。

両先生の御退任を機に、学園に在職する卒業生有志相語り、長年の御苦勞に感謝の意を表したく存じ、ここに卒業生の皆様に左記のとおり謝恩の募金を呼びかける次第であります。

記

#### 一、近先生謝恩募金

- ① 募金 一口壹千円（何口でも可）
- ② 募金期間 昭和五八年十月末日迄
- ③ 送金方法 同封の振替用紙利用のこと、現金送金の場合は左記にお願いいたします。

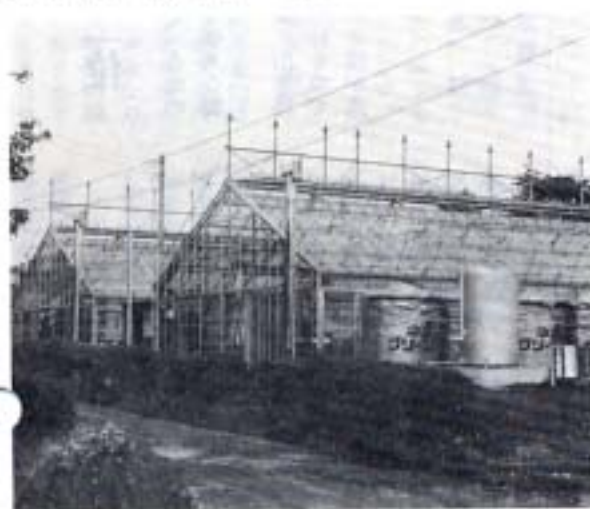
千三一九一〇三

東茨城郡内原町鯉洲五九六五

鯉洲学園内

## ガラス温室新築

鯉洲学園では園芸農場に昭和五七年度の国庫補助に依り、ガラス温室を新築した。構造は鉄骨フレーム山型2棟で1棟が鉢物用、もう1棟が切花用となっている。面積は472.5平方メートル、建築費は2,820万円である。既に鉢物や切花の栽培が行われ実務教育に生かされている。



女子寮前の通路より見たガラス温室

## 事務局だより

### 一、会費納入のお願い

- ① 近先生謝恩募金
- ② 謝恩募金の先生へのお届け
- ③ 同窓会大会（十一月）の席をおかりしてお渡ししたいと思います。

### 二、高石先生謝恩募金

- ① ④まで近先生謝恩募金と同じ
- ② 近先生、高石先生を明記の上募金下さい。

昭和五十七・五十八年度は九月末をもって閉じますが、会費納入者は七月末現在約七百四十名で納入者率は二十%弱となっています。こうした納入率のために本会活動も不十分にならないを得ず、福井支部のように十年以上に渡って必ず一括納入されたり、毎年度納入されている会員からは、きついお叱り受けそうです。

### 二、会員名簿について

昭和五十六年度発行の会員名簿は、在席部数が三百六十冊になりました。一日も早く配布が完了しよう御協力下さい。一部送料共二千円です。会員の皆様の大半が住所変更になって無届です。会報を発送して、「転居先不明」や「宛先に尋ねあたりません」の印を押されて返送されてくるものが毎回五十数を超えます。残念でなりません。住所が変更になりましたら、必ず本部事務局宛御一報下さい。

### 三、支部会への本部役員派遣について

支部からの連絡があり次第、万障繰りあわせて出席するようにしております。

福井支部会には近先生、熊本支部会には相田会長、岩手支部会には桜井副会長、九月開催される山口支部会には西村委員を派遣することにしております。要請のありました栃木支部会を始めいくつかの支部には代表を出席させることができず申し訳なく思っております。

支部会開催の場合、必ず御連絡下さい。また会の様子、特に会員の活躍のニュースを御一報下さい。